

## 平成30年度 教育活動に関する自己評価報告

### 1. はじめに

本校では、教育の質および学校運営の向上を目指し、平成27年度より組織的に学校自己評価に取り組んでいる。平成30年度は全項目についての自己評価を行ったので結果を報告する。

### 2. 自己評価の方法と結果

#### 1) 評価指針

厚生労働省から示された「看護師等養成所の教育活動等に関する自己評価指針」と文部科学省から示された「専修学校における学校評価ガイドライン」のそれぞれの特徴を確認したうえで、当校では「専修学校における学校評価ガイドライン」をベースにした自己評価シートを作成し使用している。

#### 2) 評価の方法・基準

自己評価シートに盛り込まれた評価のカテゴリー：10領域 50項目

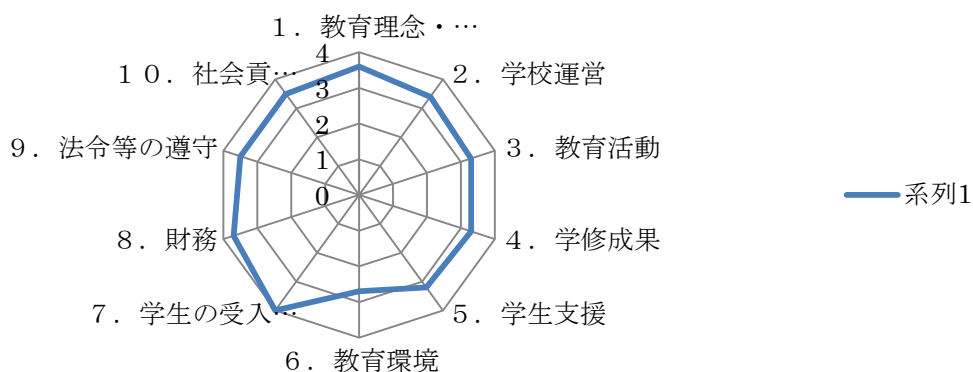
評価の基準： 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切

#### 3) 結果

10領域、50項目について自己評価を行った。各領域ごとに評価項目数が異なるが、全体像を把握するために、領域ごとの評価点の平均値を表とグラフに示した。

領 域	評価項目数	H27 年度平均点	H30 年度平均点
1. 教育理念・目的・人材育成	5	3.6	3.6
2. 学校運営	5	3.6	3.4
3. 教育活動	12	3.3	3.3
4. 学修成果	4	3.5	3.3
5. 学生支援	9	3.0	3.2
6. 教育環境	3	2.7	2.7
7. 学生の受入れ募集	3	4	4
8. 財務	3	3.7	3.7
9. 法令等の遵守	4	2.8	3.5
10. 社会貢献・地域貢献	2	3.5	3.5

## 平成30年度 学校評価結果



### 3. 今後の課題

#### 1) 「Ⅱ 学校運営」

近県の准看護学校の閉校に伴い、平成31年度より受験者が減少したことについては、今後の動向を見ながら学生確保に向けた取り組みについて検討していく。

建物の老朽化については、当面は現校舎の使用を継続しつつ、できるだけ速やかに今後の方向性を決定する必要がある。

#### 2) 「Ⅲ 教育活動」

平成21年度のカリキュラム改正では教育理念・教育目標を実現するために、また実践的な職業教育を行うために教育課程を編成し運用してきた。今後のカリキュラム改正に向け、これからの社会状況を見据え、求められている看護実践能力を学生が身につけることができるよう編成していく必要がある。

#### 3) 「Ⅳ 学修成果」

近年、既卒生の国家試験合格率が全国平均より低く、これまでのサポート体制では不十分であることが明らかとなった。既卒生の担当を決め、これまで以上に個々の背景に応じた学習支援を行うと共に既卒生への新たな指導体制を確立していく。